

TTC 提案山行実施記録表

2016年7月10日 HM

山行名	上州武尊山 [2,158m 群馬県]			
実施日	2016年7月2日(土)~3日(日) ハイエース利用 ドライバー 氏名削除			
天候/参加人員	天候 : 7/2 曇り 7/3 曇り レベル : ★★☆☆ 参加 12名(男7/女5)			
パーティースタッフ	CL/計画 : SL : 会計 : 救護 : 写真 : スタッフ名削除			
参加メンバー	A班 : (班長)、 B班 : (班長)、 参加者氏名削除			
費用 19,250 円/人	◆集金 : 231,000 円 (@19,250×12 人) ◆支出 : 230,396 円 [支出内訳] ・ハイエース費用 : ¥33,696 (@16,848×2) ・ドライバー謝礼 : ¥36,000 (18,000×2) ・高速料金 (圏央厚木~沼田往復) : ¥11,320 (@5,660×2) ・ガソリン代 : ¥10,200 (@100×460/5+@100×50/5) ・宿泊加算 ¥2,000 ・入浴料 : ¥6,600 (@550×12 人分) ・昼食代 ¥14,880 (@1,240×12) ・シャトルバス代 ¥12,000 (@1,000×12) ・宿泊代 ¥102,700 (@7,900×13 人分) ・通信費 ¥1,000 ※残金の¥604 をカンパ金とする。			
所用時間		歩行	休憩	行動
	ガイドブック	6:45	—	—
	計画	7:45	2:05	9:50
	実行	7:41	1:49	9:30
実行コースタイム記録				
◆7/2(土) ヨーカ堂前====圏央厚木 IC====高坂 S A====沼田 I C====吹割の滝====武尊溪谷==== 6:18 6:28 7:30~7:44 8:45 9:08~9:50 10:03~10:15 武尊牧場====旅館みやま 11:00~14:40 15:00				
◆7/3(日) 旅館みやま====武尊スキー場駐車場====三合平-----高山平(武尊避難小屋)-----セビオス岳 6:03 6:20 6:35~6:50 7:47 9:20~9:30 1:39(休7分) 0:47 0:40 1:06 0:33 0:55 -----中ノ岳-----武尊山(沖武尊)-----中ノ岳-----セビオス岳-----高山平-----三合平 11:09~11:20 12:07~12:40 13:20~13:30 14:36~14:45 15:18~15:25 16:20 =====武尊スキー場駐車場====花咲の湯====沼田 I C====圏央厚木 IC====本厚木 17:08 17:20~18:02 18:45 20:30 20:40				
概要・特記事項・反省事項等				

梅雨の時期ということで天気が大いに心配され、毎日何度も予報を眺めていたが、およそ40%の降水確率で推移していたため実施することを決めた。

ヨーカ堂前を計画より数分早く出発し、圏央厚木ICから沼田ICに向かった。途中、2キロほどの事故渋滞に出会ったが、それ以外は順調に進み、約2時間半で沼田ICを抜けることができた。その後、日光、尾瀬方面に車を進め、吹割滝「滝の駅」駐車場(無料)にほぼ予定通りに到着した。関東の水がめでは喝水が叫ばれているが、それが反映されているかのようになく水量が少なく、迫力に欠けた。本来なら水に覆われている岩がむき出しになっており、苔が乾いて磯の香が漂うような有様であった。ここが「東洋のナイアガラ」と名付けられた所以であろうと思われる場所で写真を撮り、早々に引き上げた。

次に向かったのは武尊溪谷である。事前にネットで調べた際、遊歩道の入口から10分ほど歩いた箇所が崩落していてその先には行けないということが分かった。下見の折それを確認したが、溪谷の涼しさと景色が捨てがたく、行くことにした。行ってみると、遊歩道に入ってすぐに、その涼しさに皆驚いていた。あつという間の時間だったが、溪谷の雰囲気味わってもらえたと思う。

いよいよ武尊牧場の、楽しみにしているBBQだ。12時の予約がこのままでは11時に着いてしまうということが分かり、皆に相談したら「リフトを使わず歩いていけばちょうどいいのでは。その料金でビールが飲めるし、お腹も空いてよりおいしくなる。」という声が上がった。「リフトに乗りたい。」という声もあったが多勢に無勢、押し切られる形で歩くことになった。リフト乗り場駐車場に車を止め、牧場まで15分ほど歩いた。「ジンギスカン・BBQハウス」は私たちだけの貸し切り状態で、気兼ねなく昼食をとることができた。「おいしかったし、お腹もいっぱい。」という声が聞かれ、よかったと思った。

その後、牧場内の「モリアオガエルの池」周辺を散策した。池の周りの木の枝にはモリアオガエルの卵があちこちにぶら下がっていた。また、蕨がたくさん生えていて、思いがけず蕨採りに興じる場面もあった。花もたくさん咲いていて、花畑のようであった。ヒオウギアヤメ、ヤマオダマキ、ニガナ、シロバナニガナ、ギボウシ、ピンクと白のヨツバヒヨドリ、アザミが群生しており、ベニバナイチヤクソウ、レンゲツツジ(6月には大群落が見られる。)も見られた。

引き続き、周回4キロほどのトレッキングコースを歩いたが、ブナやシラカバの原生林の中をのんびり散策し、癒された。牧場に戻ってから、B班のSさんが「緊急時の手当の仕方」について1時間ほどお話をしてくださったが、止血をするときはビニール袋等、身近なもので傷口を抑え、直に手で触れてはいけないということを知った。三角巾を人数分用意してくださるなど、本当にありがたかった。

旅館みやまに午後3時には到着し、入浴後は宴会で盛り上がった。そのうち大広間からピアノの音色が聞こえ、いったい誰が?と試してみるとOさんと、さすが多芸多才のOさんと皆感心しきりだった。宴会中に宿から漬物や氷の差し入れ(氷は無心したら快く3回も出してもらえた)があり、こんなことは初めてと、感謝の気持ちでいっぱいになった。6時半からの夕飯は素材の味を生かしたおいしいお料理で皆大満足だった。私たちのほかの宿泊客はJA横須賀の20人ほどで夕飯後はカラオケで盛り上がっていた。いつまで続くのかと心配だったが、10時には終わったのでほっとした。

朝は5:30に食事で、これもとてもおいしかった。6:02に宿を出て、6:25にスキー場駐車場からのシャトルバスに乗って三合平へ向かった。計画書では東俣駐車場から三合平に向かうことになっていたが、東俣駐車場へ向かう林道が通行止めとなっており、往復1000円の料金を払って三合平の登山口近くまで行くしかない代わりに、標高差で約100m、歩行時間で約30分の短縮となった。

OさんとSさんの体調がいまいちということでC班を編成し、C班をCLの後ろにして7:00に東屋を出発、ゆっくりと歩き始めて1時間ほどで避難小屋に着いた。ネットの情報で、武尊山の登山道はぬかるみが多いと聞いていたが、予想を超えるぬかるみで大変な状況だった。木の枝が橋のように渡してある場所がたくさんあり、まるで平均台を渡るかのようにバランスを取りながら渡った。セビオス岳まではブナやダケカンバの林の中、緩やかなアップダウンの登山道が続き、ギンリョウソウやタニギキョウ、マイヅルソウなどを眺めながら歩いた。中には、クマザサの中から曲がり竹を見つけ出して手折りながら歩いている人も見られた。

セビオス岳からしばらく行くと、中ノ岳の手前にクサリ場の急登が現れ、落石に注意しながら一人ずつ慎重に登った。途中、Oさんの様子を見ていたS.Kさんがザックの荷物を手分けしたり、ザックを背負ったりし

て、Oさんが頂上に立てるよう支援してくださり本当にありがたかった。歩き始めはC班だったSさんは10時前には復活し、A班に戻ることができた。

中ノ岳を過ぎてしばらく歩くと三ツ池があり、池の中にはクロサンショウウオの卵が、まるでブドウの房のような状態で浮かんでおりびっくりした。池のそばには珍しいキヌガサソウが見られ、その後も、ウラジロヨウラクやベニバナドウダン、ミヤマダイコンソウなどを眺めながら登った。頂上近くには武尊像が設置され、「一体どうやって運んだのだろう。」という疑問を持って見上げた。ゆっくり歩き、中ノ岳から1時間ちょっとでやっと頂上に立つことができた。天気良ければ360度の眺望が期待できるのだが、霧に覆われ残念だった。しかし、雨に降られて合羽を着るような場面もなく、とにかく幸いというしかない。

到着がやや遅れたので、写真撮影を済ませ、昼食も短めにして下山することにした。4:30pmのリフト最終便に間に合うかどうかの懸念があり、クサリ場を過ぎてからは歩くペースを速めたため、計画書とほぼ同じ時間で下山することができた。ぎりぎりリフトに乗ることができ、Iさん運転のハイヤーが待つスキー場駐車場までシャトルバスに乗った。

計画書には「時間があれば花咲の湯に寄ります。」と載せておいたので迷ったが、帰りの車内マナーを考えて寄ることにした。花咲の湯はデザイナーズガーデンで、露天風呂の周りは美しい花が咲き乱れていた。「こんな露天風呂初めて。」という声が聞かれ、寄る価値があったと思った。下見では1階の庭は露天風呂どころではない素晴らしい庭を堪能したので、見学する時間がなかったのがとても残念だった。

花咲の湯を18:02に出発、夕食をコンビニで購入し車内で済ませた分、計画より早く厚木に到着することができた。

2日は広々とした素敵な牧場を、のんびり花や森林浴を楽しみながら散策できて、Sさんのお話も勉強になり、とてもよかった。3日は雨に遭うことなく、花を楽しみながら、また、根曲がり竹を採集しながら、全員が頂上を踏めたことが本当にありがたかった。

皆様のご協力のおかげと痛感しています。本当にありがとうございました。楽しい皆様のおかげで私自身が心から楽しめた山行になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。